

保健・福祉・医療専門部会会議概要

1 開催状況

第1回専門部会 7月24日（月）15：00～17：00

第2回専門部会 8月3日（木）15：00～17：00

第3回専門部会 8月14日（月）15：00～17：00

2 審議の進め方

第1回専門部会及び第2回専門部会において、当専門部会が担当する分野の施策を個別に審議を行った。その上で、第3回専門部会において、議論を深め、当専門部会としての答申案を取りまとめた。

3 専門部会での委員発言要旨

◇9 地域 みんなが、支え合うまちをつくる

■指標で「『地域見守り隊』の結成数」を掲げているが、自治会が結成されていない地域があるため、那覇市を網羅できるのか疑問である。

■既存の組織と未組織のエリアをどうやって埋めていくかを考えると、基本計画に、福祉の圏域として小学校区を単位とすることを位置づけるべきではないか。

■地域づくりには、子どもからお年寄りまでの幅広い視点が必要である。

■母子保健推進員からの情報が上にあがっていない状況がある。福祉の圏域を小さくする必要があると同時に行政の各分野の連携体制の構築が必要である。

■地域の圏域を考えることが先ではないか。

□自分たちの地域は自分たちで何とかしようという意識が働くことが重要であり、その圏域を小学校区として仕掛けていく必要があり、具体的に位置づける必要がある。

□小学校区の中で「地域見守り隊」をいくつ作れるか等、専門職も入って議論していく必要があり、市全域での数だけの問題ではなく、中身が伴う必要がある。

■母子保健推進員も基本は見守りであり、そのような組織を繋げていく必要がある。

□地域づくりにおいて、「小学校区」を福祉の圏域として位置付けてもらいたい。

□地域見守り隊については、数だけの議論ではなく、中身を伴った組織にする必要がある。

◇10 小学校区などの身近な地域の中で、高齢者がいきいきと暮らせるまちをつくる

■高齢者福祉では、福祉の圏域を小学校区としているが、地域福祉計画でも整合性を図り小学校区を福祉の圏域として明確に示してもらいたい。

■現在は高齢者人口で圏域を決めているが、平成30年度からは小学校区（2校区）を単位として、地域包括支援センターを増設すると聞いているので、高齢者福祉の圏域は小学校区で良いと思う。

- 高齢者が住まいを新しく探すときに困難を生じている現状がある。高齢者の住まいを別建てで取られることを検討してもらいたい。
- 介護予防に関する事業への参加人数を指標として設定しているが、元気高齢者の健康づくりも重要なので他の指標の設定も検討してもらいたい。例えば、仕事をしている、ボランティアをしている、地域活動に参加している等の高齢者が元気に社会とかかわっている指標が考える。
- 在宅介護に向けた取り組みの方針となっているが、それと連動した指標の設定を検討してもらいたい。

◇11 障がいのある人が安心して暮らし、働けるまちをつくる

- 施設入所から在宅生活に移行した障がい者数の目標値が、15 人、30 人となっているが、目標値の妥当性が判断できないため、高嶺委員の意見を伺いたい。☆第 3 回専門部会で確認☆

◇12 子どもの貧困対策をすすめて子ども達が夢を持って成長できるまちをつくる

- 生活保護世帯に限らず、生活保護要件に該当するにもかかわらず保護を受けていないグレーゾーンの世帯に対する取り組みを指標として図る必要もあるのではないかな。
- 「子ども達が夢をもって成長できる」ことを実感できる指標を考えても良いのではないかな。例えば、母子家庭では、欠食をなくすことを目的として「朝食をとる子どもの割合」などが考えられる。
- 生活保護世帯だけの問題ではなく、何らかの要因で貧困に位置づけられる子どもに対する取り組みを図る指標の設定を望む。
- 取り組みの柱の「子どもの貧困をテーマとした地域連携」においては、内閣府の補助金を活用する取り組みとなっているが、補助金終了後に取り組みを継続するものとして「新たな社会資源の創出」を掲げているが、ゴール設定の具体性に欠けるため、明確な表現に修正してもらいたい。
- 進捗を図る指標の見直してもらいたい。
- 取り組みの柱 2 から 3 へつなぐ道筋を明確にしてもらいたい。

◇13 市民一人ひとりが健康づくりを実践するまちをつくる

- 喫煙対策においては、国が先行し受動喫煙を 0 にする方針を示している。市の既存の計画を先取りしていくような取り組みが必要ではないかな。
- 成人へのアプローチに偏っているため、次世代の健康づくりについても取り組んでももらいたい。
- 他市町村の取り組みである「てくてく登校」など、健康づくりだけでなく、教育面にも良い取り組みを行いなは市民全体の健康につなげる必要もあるのではないかな。
- 成人だけでなく、次世代の健康づくりの視点も盛り込むべきである。

◇14 市民一人ひとりがこころの健康を維持することができるまちをつくる

- 従来の取り組みに加え、県の施策（県では中学生向け副読本を作成している）との

連携など取り組みを強化してもらいたい。これらの実施結果を指標とすることも考えられる。

- アルコール依存症やうつ病の早期発見のため医療機関の看護師の研修機会など指標として掲げてはどうか。
- ゲートキーパー自体が広く認知されているか疑問があるためゲートキーパーの普及啓発活動を強化する取り組みが必要である。公民館を利用したパネル展など
- 障がいを持っている等生きづらさが社会から追い込まれ自殺に繋がる要因となるため、それらを理解するための取り組みも必要である。
- こころの健康、多様性を理解することやそれを支えるゲートキーパーの役割等の普及啓発活動の充実など取り組みの強化を望む。
- 自殺未遂者は自殺者の10倍いると言われている。消防局や医療機関と連携し、自殺未遂者を把握し、対策を進めることが必要ではないか。あわせて、指標の設定も検討してもらいたい。

◇15 親と子が地域の中で共につながり健やかに暮らせるまちをつくる

- 指標については、受診率だけでいいのか。健診期ごとの課題を指標として設定してはどうか。乳児期と幼児期では、課題が異なる。(発達障害、親子の関わり、貧血等)
- 育児不安を解消できるような相談体制等を図る指標が望ましい。
- 子育て世代包括支援センターの設置について、情報を集約する仕組みや保育所との連携に関する取り組みが必要ではないか。
- 安心して生み育てやすい環境を構築する指標として出生率も考えられる。
- 子育てが楽しいと答える人の割合の目標値は、あまり意味はないのではないか。
- 健診受診率よりも具体的な指標設定が望まれる。
- 子育て世代包括支援センターに関する指標の設定が望まれる。

◇16 地域医療の充実したまちをつくる

- 市立病院は開業医との連携もうまくいっている。医師の疲弊が心配であるが、それらの記述があってもいいのではないか。
- 市立病院の建て替えは、市民も気になる所なので、記述がほしい。
- 緩和ケア病棟はないが、機能分担は順調に進んでいる。那覇市全体として、在宅医療を含め、終末期の待機状態が課題となるのではないか。
- 紹介率は達成しているが、今後も維持していけるよう、医療体制の確保等に取り組んでももらいたい。
- 市立病院として医師会と連携して紹介率を上げてきた取り組みをみえるように現状と課題に記述してもらいたい。

◇17 適切に救急医療につなげるまちをつくる

- 保健所や医師会と連携して子どもの事故予防（誤飲等）啓発や事故が起きた時の対処方法等の対策が必要ではないか。
- 救急車を利用している方の年齢区分等の分析が必要ではないか。

- #8000 の利用状況等を指標としても良いのではないかな。
- リーフレットが各世帯に届く等有効に活用される仕組みを検討してもらいたい。
- 外国人観光客向けに多言語対応等の啓発が必要ではないかな。
- 社会福祉協議会では有用情報を記載した緊急医療キットの普及に取り組んでいるが、社会福祉協議会だけでは限界があるため、関係機関と連携して健康に不安のある方への救急医療の対応等の取り組みとして検討してもらいたい。

◇18 医療費の適正化を進めるまちをつくる

- 沖縄県は非正規雇用者の割合が高い傾向にあり、健診受診のため仕事を休むと賃金に影響がでてしまうため、受診しないのではないかな。
- 商業施設やイベント会場で健診を受けられる仕組みやポイント付与等のインセンティブが必要ではないかな。
- 医療に税金が投入されていることの啓発を強化する必要があるのではないかな。
- 小学校等において副読本（次世代の健康づくり副読本）や食生活推進員を活用した健康づくりをすすめ、子どもからの会話を通して親世代に呼びかける取り組みが必要ではないかな。
- 肝疾患の主な原因となっているアルコールの多量摂取について指標の設定を検討してもらいたい。
- 大腸がんの健診は有効性があるが、有料健診となったために受診率が下がった経緯がある。エビデンスが示されている取り組みについては、しっかりと取り組んでももらいたい。

◇19 衛生的で快適な生活環境を守るまちをつくる

- それぞれの指標の目標値が中間目標値よりも最終目標値が低い理由の説明が必要である。

◇20 健康危機管理体制が整ったまちをつくる

- 結核に対する予防対策や啓発活動の取り組みを記述するとともに、それらの活動指標を設定した方が良い。
- 災害時（大雨による土砂崩れ）に保健所のスタッフが被災された方の PTSD のフォローを行った取り組み等を現状と課題に記述し、健康危機管理体制を整える取り組みについても具体的例を挙げて（災害医療コーディネーターの配置など）もらいたい。
- 10年間で起こらないとも限らない事象に対する備えを記述し、体制を整えておくことが必要ではないかな。
- 中核市である那覇市と沖縄県との役割分担の整理も必要である。
- 性感染症に関する現状を捉え指標を検討できないかな。